

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300432		
法人名	特定非営利活動法人 三山の家		
事業所名	グループホーム 元気村		
所在地	埼玉県本庄市田中105-1		
自己評価作成日	平成27年3月7日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=1174300432-008PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	平成27年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元気村では、「ゆっくり・のんびり・穏やかに」を理念に掲げ、ゆったりとした時間の流れの中その人らしい生活を送って頂けるようにする事を大切に考えています。利用者様にもご家族様にも安心して頂けるホームになるように努力をしています。近隣の方から頂いたお野菜を活用し「楽しい・美味しい」食事になるように努めています。利用者様の個々の状態に合わせ、出来る家事作業を職員と一緒に頂くことで残存機能の活用に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR高崎線・本庄駅から車で10分程の所にある、平屋建て1ユニット、定員9人のグループホームである。周囲には住宅や広い畑があり、遠方には利根川の土手が見え、穏やかでのどかな風景の中にある。日常的に近隣に散歩に出掛け、地域の方と挨拶や世間話、野菜のお福分け等、多くの触れ合う機会を得ている。「ゆっくり・のんびり・穏やかに」の理念を職員で共有し、バランスの良い食事を3食手作りして提供する等、家庭的な雰囲気大切にしている施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	している 「ゆっくり・のんびり・穏やかに」の理念を共有し、ゆったりとした時間の流れの中、穏やかに過ごして頂く為、職員全員が全力でケアにあたらせて頂いている。	玄関ホールの上に理念を掲示し、職員全員で確認している。月1回の職員会議では「ゆっくり・のんびり・穏やかに」過ごして頂くための具体的なケアについて話し合い、意識の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	している 挨拶を大切に、近隣の方々から野菜を頂いたり交流は勿論、地域の行事にも積極的に参加している。今後より一層交流を深めていきたいと考えている。	自治会長等から情報を得て、地区の清掃活動に参加したり、保育園の運動会に行ったりして交流を図り、事業所の事を知って頂く機会を持っている。地域のボランティアもよく受け入れ、近隣の方から野菜を頂いたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	している ご家族の相談時や見学者来所時に活用している。また、消防訓練や運営推進会議への参加をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	している 運営推進会議を2か月に1回開催しており、日頃の慰問や行事報告、ホームでの改善点や評価の報告、意見交換を行いサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、土曜日に開催している。家族・市職員・民生委員・自治会長・法人理事長・職員が参加して、ホームの現状、行事、前回取り上げられた事項の検討結果等が報告され、出席者からの意見、要望等を伺い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	している 運営推進会議以外にも疑問や不明点があった場合、市役所の担当者に連絡し、指示を仰いでいる。各種報告等でも窓口を訪ねる機会があり協力して頂いている。	運営推進会議に積極的に出席して頂き、その議事録を家族等に配布する前に市職員に確認して頂いている。疑問、不明なことがあった場合は適宜電話等で相談しており、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	している 「身体拘束排除マニュアル」に沿って身体拘束を行わないのは勿論、「心理的拘束」も行わない様、言葉遣い等にも注意を払っている。	年2回の職場研修の内1回は身体拘束をしないケアの実践について研修している。職員会議等でマニュアルに沿って入居者の抑圧感を招いていないか、見守りの方法等を話し合い、共有化し心身共に拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	している 虐待防止に関するマニュアルを準備し、周知すると共に利用者様とその人らしく尊厳を持って生活できるように注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	している 職員に研修やマニュアル等で学ぶ機会を設け、活用できるよう理解と支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	している 契約前には、書面にて説明を行い十分に理解、納得を頂いてから契約や解除等の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	している 運営推進会議を2カ月に1回開催しご家族様が意見、要望を出せる機会を設けている。また、面会時、プラン作成時についてもご意見、要望を伺っている。苦情ポストの設置も行っている。	月毎に利用料を持参して頂いており面会時や運営推進会議出席時に、意見・要望等を伺う機会を設けている。出された意見等は職員会議等で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	している 職員会議を毎月行い個々の意見を提案してもらい、運営や業務改善、利用者様の個別ケアに関する事など職員の意見をケアに反映させている。	月1回の職員会議で意見を取り上げている。不定期ではあるが法人本部職員が会議に出席して他施設での事例等の参考意見を交え、話し合い、運営に反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	している 就業形態について出来る限り無理のないよう配慮しつつ提案や意見を聞いている。また、パート職員を含め全職員に改善手当を支給している。昇給も行っている。資格取得に向け、資格手当も支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	している 職員の経験や実力に合わせて認知症基礎研修を始め研修受講などの機会を設けている。勤務しながらの資格取得を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	している 法人内で管理者が交流する場を設け質の向上を図っている。今後は職員も交流する場を設け、他施設との勉強会や相互訪問等の活動をしていきたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	している ご本人様やご家族様が抱えている問題や不安感を傾聴し、安心感をもって頂けるよう気配りをし関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	している 時間をかけて傾聴し、適切なアドバイス等にて安心感を持って頂き不安解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	している ご本人様とご家族様にとってのニーズの優先順位を考え、適切な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	している 人生の先輩であり尊敬し、職員が学ぶこともある。ご本人様の出来る事を共に探り、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	している 面会や受診時等の際に生活状況を報告し、今後のケアに繋がるよう一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	している ご家族様のみならず友人、知人などの方々に遠慮なく来所していただけるように心掛けている。また、お正月や連休等で帰省される方もいる。	アセスメントや入居者の言動等から馴染みの場所や人を把握している。家族の協力も得て、希望者には正月や連休に外泊して頂いたり、馴染みの美容院の訪問美容を取次いだりする等、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	している 利用者同士の輪が保てるよう座席配置等も考え職員が橋渡し役となりコミュニケーションの時間を持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	している 次の施設への連絡等、退所後の相談があれば応じている。今後も継続して取り組んでいきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	している 日々の生活の中でコミュニケーションを通じ出来る限りご本人様の希望や意向の把握に努めている。意志疎通の困難な利用者様に関しては、表情やご家族様からの情報を考慮し対応している。	入居者の日頃の会話や生活状況から気付いた事を連絡ノート等に記録し、思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方は家族や関係者から情報を得、意向に沿った対応の検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	している 利用者情報提供書や聴き取り等から生活歴や馴染みの暮らし方、環境を把握している。個々のファイルを職員が閲覧できる環境にあり、把握、支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	している 日々の生活の中での動き、発言を入念に観察し、また生活歴を基にその人らしさの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	している 日々の生活の中でご本人様から、面会時や運営推進会議等の集まりの際にご家族様から、と意見を伺い職員で意見交換、カンファレンスを実施し介護計画に反映している。	本人および来訪した家族や関係者の意見・要望を連絡ノート、業務日誌等に記録しこれを基に週毎に職員全員でモニタリング、カンファレンスを行なっている。通常は3ヶ月毎に見直しているが、状況変化に応じて随時見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	している 個々のケース記録を毎日記載、保管している。その中にご本人様の身体状況や行動、発言等の気づき、ご家族様からの要望や意見も記入し、職員間で情報を共有し話し合いケアサービスに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	している 訪問歯科や訪問美容の導入、受診同行やご家族様了解の買い物同行など対応可能な限り多種サービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	している 近隣の方やボランティアによる慰問等、利用者様の励みになっている。また、地域の方に消防訓練にも参加して頂き、地域の方との関係を持ち支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	している ご本人様、ご家族様の希望を優先し受診を決めて頂いている。常時適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族が希望する入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。家族同行の受診を基本としているが、不可能な時には職員が同行している。月2回、協力医療機関の往診があり、状況によっては歯科の往診も受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に常勤の看護職員はいないが訪問診療の際、日常の中で関わり得た情報を正確に伝えられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	している 主治医やかかりつけの医師に必要に応じて適切な医療を受けられるよう、連絡や相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で重度化した場合やターミナルのあり方をご家族様と話し合い方針を共有している。また、入院等が発生した時はご本人様の意思を尊重しご家族様、医師と相談した結果により方針を共有し支援している。	契約時に本人や家族の意向を伺い、重度化や終末期にホームが対応可能なケアについて説明し、方針を共有している。重度化した場合には、本人の意思を尊重し家族、医師、職員が密に連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	している 急時対応マニュアルを準備し、勉強会を行い対応できるようにしている。また、電話機のすぐ近くに緊急時の対応の仕方を掲示し焦ることなく適切な対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	している 年二回昼夜想定消防避難訓練を行っており、ご家族様や地域の方にも訓練への協力をお願いしている。	12月は職員と入居者が参加しての自主避難訓練、6月には消防署の立ち合いの下で職員・入居者・家族が参加の消防避難訓練を実施しているが、地域住民の参加は無い。非常用の備品・食品等の備蓄を行っている。	災害時の対応には地域との協力関係が重要であるため、自治会や運営推進会議等を通じ、近隣の方々に呼びかけ、訓練に参加して頂く事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	している 利用者様、一人一人を尊重し、その方に合ったペースで話や声掛けを行い、その方の気持ちになって考えながら対応している。	利	一人ひとりの尊厳を傷つけないように、その方に合ったペースでさり気ない声掛けをし、本人の気持ちを大切に、自己決定し易い対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	している 来る限り利用者様個々との時間を持ち傾聴している。ご自分からの訴えが困難な方には職員側から伺う等なるべく自己決定が出来るような支援を心掛けている。	出		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほぼしている 個々のペースに合わせた日常生活が出来るよう、またその日の体調等も考慮しつつ希望に沿った支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	している 洗顔や整髪等ご自分で出来る方には行ってもらっている。また、希望者には2か月に1度の訪問美容の利用もある。衣類等もご自分で選択できる方には行ってもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している 特に献立は決めず、希望があればその日に提供できるよう考えている。食事時は職員も同じテーブルについている。下膳等も出来る方には行って頂いている。		献立は決められておらず、その日に入居者の希望に沿った食事を提供している。献立が偏らないように気を付け、魚は骨無し之物を購入し、近隣の方から頂く新鮮な野菜等を使用し3食を手作りしている。行事食やおやつ等を一緒に手作りして楽しい食事を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	している バランスを考えたメニュー作りを心掛けている。水分も出来る限り摂取して頂けるよう声掛けやこまめに水分摂取して頂けるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	している 毎食後の歯磨きの声掛けと誘導を行っている。ご自分で出来ない方には介助をし口腔内の清潔を保っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	している それぞれの訴えやサインを見逃さず利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導し失敗の軽減に取り組み出来る限りトイレでの排泄が出来る様に心掛けている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気ない声掛けで時間を見計らって誘導するようにしている。車イスの方で可能な方には手を引いてトイレに誘導する等、可能な範囲で自立出来るよう、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	している 毎日体操を行い、散歩に出る機会をつくり運動不足の解消を図っている。便秘の方には毎日同じ時間にトイレ誘導し排便パターンを作り、食事面では食物繊維が多い食材を使用する事により便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	している 入浴日は決まっているがその中で入浴の順番等を伺い不平等にならないように考慮している。また、個々の体調を考慮しシャワー浴や入浴できない方には清拭等に対応している。	日曜以外、一日置きに週3回入浴して頂いており、入浴順等は希望に沿い個浴で対応している。入浴を拒否される方に対し、足浴から慣らしながら段階を踏み普通に入浴が出来るようになった方のケースもあり、入浴を楽しんで頂けるよう工夫しながら支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	している その方の意見を尊重し居室やソファで休息して頂いたり午後にはカフェインを含んだ飲料を控える等利用者様が気持ちよく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	している 薬の管理は全て職員が行い、利用者様個々の服薬表を職員が確認できる状況になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	している 掃除や洗濯者干しや洗濯物たたみ等その方に合わせた役割を持って頂いている。また、散歩やレクリエーション等、各自の希望があれば応えられるよう努め支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	している 職員体制を整え、散歩や買い物および外食、お花見などの外出の機会を設けている。法人内ホームで車を購入し、相互に利用し、多人数で移動できるようにした。	天気の良い日はいつも近隣に散歩に出掛けており、歩行困難な方はホーム前の庭で日光浴をして頂いている。今年度は福祉車両を購入したので家族の提案を受け入れ、多人数でお花見等に出掛ける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない ご家族様の判断のもと、現在は利用者自身でもホームでも金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい等の希望がある場合は対応できる体制にはなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	している トイレや浴室には目印をつけている。ホールでは馴染のある曲を流したりゆったり過ごせるような空間作りに心掛けまた温度調節にも配慮し季節感のある飾りを取り入れ慰問やレクリエーションや行事等の写真も掲示している。	玄関ホールは広く、壁には入居者の行事の写真や作品等が貼られている。庭に面したリビングのガラス戸は大きく、屋内に居ながら外の季節感が感じられる。リビングに置かれたソファは自由に寛ぐことができ、居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している 居室の他にホールにソファを配置しテレビを見たり音楽を聴いたり休息をしたり仲の良い方同士で談笑したりとそれぞれの居場所を選びくつろいで頂けるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している 今までご自宅で使用していた馴染みのある物を持ち込んで頂き写真なども飾り居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	居室にはエアコン、ベッド、クローゼットが設置されている。寝具やタンス、仏壇、写真等、自宅にあった馴染みの物を持ち込んで頂き、好みの暖簾を入りに掛けて、作品を飾ったりして、その人らしく居心地よく暮らして頂けるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	している ご本人様の出来る事を見つけ残存機能を活かし、職員の見守り、必要に応じた介助も行いつつ安全性も確保し個々に合った支援に努めている。		

目標達成計画

作成日: 平成 27年 3月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の訓練において、近隣の方々の参加がされていない。	自治会や運営推進会議等を通して近隣の方々、ご家族の皆様呼びかけ、参加していただく。	5月に消防訓練を実施し、事前に近隣やご家族に参加を通知する。参加された方は訓練実施書式に記入し記録として残す。	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。